

沖澤のどか（指揮）

NODOKA OKISAWA

2019年に小澤征爾や佐渡裕を輩出したブザンソン国際指揮者コンクールで優勝！

1987年三沢市で生まれ、青森市で育つ。小学校5年から高校まで青森ジュニアオーケストラに所属していた。青森東高校では吹奏楽部に所属。2年の時、オーストラリアに語学留学したのを契機に、音楽の道へ進むことを決意。

東京藝術大学音楽学部指揮科首席卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。同大学院修士課程修了。ハンス・アイスラー音楽大学ベルリン修士課程オーケストラ指揮専攻修了。ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。同時に聴衆賞、オーケストラ賞を受賞。第18回東京国際音楽コンクール〈指揮〉にて第1位及び特別賞、齋藤秀雄賞を受賞。渡邊曉雄音楽基金音楽賞受賞。

2011年～12年、オーケストラ・アンサンブル金沢指揮研究員。

これまでに指揮を高関健、尾高忠明、クリスティアン・エーヴァルト、ハンス・ディーター・バウムの各氏に師事。また幼少からピアノを佐々木由美子、友田恭子、小池ちとせ、北川暁子の各氏に、チェロを村川芳信、前嶋淳の両氏に、オーボエを西沢澄博氏に師事。

下野竜也、井上道義、ペーター・ギュルケ、パーヴォ・ヤルヴィ、クルト・マズア、リッカルド・ムーティ各氏のマスタークラスを受講。

これまでに、ミュンヘン交響楽団、コンツェルトハウス・ベルリン、NHK交響楽団、東京都交響楽団、広島交響楽団、ライプツィヒ交響楽団、メルボルン交響楽団、北オランダ管弦楽団、バレンシア管弦楽団、サイトウ・キネン・オーケストラ、ニース・フィルハーモニーオーケストラ他多くのオーケストラを指揮する一方、2022年セイジ・オザワ松本フェスティバルにて「フィガロの結婚」を指揮して成功を収めるなど、オペラの分野でも活動を広げている。

2020年8月より2年間、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団にてキリル・ペトレンコ氏のアシスタントを務めた。

2022年9月、ミュンヘン交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスに就任。

2023年4月から京都市交響楽団第14代常任指揮者に就任。



©Felix Broede



©Ariga Terasawa

牛田智大（ピアノ）

TOMOHARU USHIDA

人気・実力ともに若手を代表する注目のピアニスト！

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年第29回出光音楽賞受賞。

1999年福島県いわき市生まれ。2012年、クラシックの日本人ピアニストとして最年少12歳でユニバーサルミュージックよりCDデビュー。最新CDは「ショパン2022」。これまでにベスト盤を含む計9枚のCDをリリースし、2015年「愛の喜び」以降、続けてレコード芸術特選盤に選ばれている。

シュテファン・ヴラダー指揮ウィーン室内管（2014年）、ミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管（2015年／2018年）、小林研一郎指揮ハンガリー国立フィル（2016年）、ヤツェク・カスプシク指揮ワルシャワ国立フィル（2018年）各日本公演のソリストを務めたほか、全国各地の演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年5月にはプレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管モスクワ公演、8月にワルシャワ、10月にはブリュッセルでのリサイタルに招かれた。2022年3月、デビュー10周年を迎えた。

山形交響楽団

Yamagata Symphony Orchestra

食と温泉の国のオーケストラ

1972年、東北初のプロ・オーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコンサート」など、年間150回に及ぶ多彩な演奏活動を展開。

2007年、飯森範親（2004年から常任指揮者・ミュージックアドバイザー）の音楽監督就任を機に、名実共に東北地方のみならず日本の音楽文化を代表するオーケストラとしての地位を確立。2008年には、アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2017年「モーツァルト交響曲全集CD」を発売、第55回レコード・アカデミー賞（特別部門 企画・制作）を受賞し全国的な話題となる。

2020年6月より、常任指揮者 阪哲朗とともに「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」をスタート。全集DVD制作とインターネット配信を通じて、山響の新たな魅力を発信している。2022年、創立50周年を迎えた。

常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親。

オフィシャル・ウェブサイト <https://www.yamakyu.or.jp/>



©Kazuhiko Suzuki